

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鳥羽商船高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
—	商船学科	夜・通信	—	—	8	8	7	—
	電子機械工学科	夜・通信		—	8	8	7	—
	制御情報工学科	夜・通信				8	7	—
—	海事システム学専攻	夜・通信		—	8	8	7	—
	生産システム工学専攻	夜・通信			8	8	7	—
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校 Web ページにより公表： https://koho.s.toba-cmt.ac.jp/wp/wp-content/uploads/jitumukeiken.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鳥羽商船高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20201016\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20201016).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2024 年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学理事・ 副学長	2020年4月 1日～2022 年3月31日	情報システム 国際交流・海外展開
非常勤	東京大学教授	2014年4月 1日～2022 年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鳥羽商船高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本校において、授業計画(シラバス)は次年度の作成を12月頃から始め、教務委員において確認・確定し、4月1日から本校HPを利用し公開(Webシラバス)している。なお、シラバスには以下の事項の記載を必須としている。</p> <p>【シラバスへの記載事項】 到達目標, ルーブリック, 教育方法, 評価割合, 授業計画(週(回数)ごとの授業内容・方法および到達目標)</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本校 Web ページ (Web シラバス) :</p> <p>https://www.toba-cmt.ac.jp/gakka/syllabus/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>規則(学則, 学業成績の評定並びに修了及び卒業に関する内規, 教務に関する内規等)により履修及び単位認定, 進級・卒業認定条件等を定め, また, シラバスに科目ごとの成績評価項目・評価割合を公開し, シラバスに沿った評価を行っている。また, 単位認定・修了認定等は学内会議において認定している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な指標の設定については重み付けによる平均点（各科目の成績に、科目の単位数を乗じたものの総合計点数を当該科目の単位数の合計で除して決定）しており、「教務に関する内規」において明記している。</p> <p>また、学科会議において各科目の平均点等から難易度・困難度を検討する等し、試験問題や成績評価について議論を行っている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧： https://www.toba-cmt.ac.jp/gakusei/binran/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>規則（学則、学業成績の評定並びに修了及び卒業に関する内規、教務に関する内規等）により卒業認定条件等を定め、学内会議において認定しており、また、ディプロマポリシー（卒業認定の方針）を作成し、定められた項目を修得した学生に卒業を認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>学生便覧： https://www.toba-cmt.ac.jp/gakusei/binran/</p> <p>ディプロマポリシー掲載ページ： https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鳥羽商船高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR1.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR1.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R1jigyohokokusho.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenR1.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和3年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r3-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/jkoukai/tenkenhyouka/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 商船学科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。 【ディプロマポリシー大項目】 (A) 人間性豊かな教養人となること (B) 創造性豊かな技術者となること (C) 国際性豊かな社会人となること
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 5年半の学修フェーズを「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の2つに大別する。各フェーズは学内における学習や実習による「席上課程」と大型練習船における乗船実習における乗船実習による「実習課程」を含む。学生は基礎フェーズで自分の適性を見極めた後に「航海コース」または「機関コース」を選択する。応用フェーズでは各コースの専門的な学修と長期の大型練習船における乗船実習を行い実践的かつ幅広い学習を進める。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) ・海や船に興味がある人 ・学ぶことが好きで自ら考えて行動できる人 ・将来、海事技術者とし世界で活躍したい人

学部等名 情報機械システム工学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 情報機械システム工学科は、情報工学、電気電子工学、機械工学を基盤とし、学生自身の個性に応じたカリキュラムを選択することで、地域に貢献し日本の産業を支える実践的技術者としての専門知識・技術を身に付ける。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 情報機械システム工学科は、情報工学、電気電子工学、機械工学を基盤とし、学生自身の個性に応じたカリキュラムを選択することで、地域に貢献し日本の産業を支える実践的技術者としての専門知識・技術を身に付けることを目標とする。 【ディプロマポリシー大項目】 (A) 人間性豊かな教養人となること (B) 創造性豊かな技術者となること (C) 国際性豊かな社会人となること
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 5年間の学修フェーズを「スタートアップ」「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の3つに大別し、「スタートアップ」では情報機械システム工学科で学修する概要を理解するとともに論理的思考能力を育成し、「基礎フェーズ」において、体験型の実習を通じて共通基盤となる技術要素に触れる。4・5年生の「応用フェーズ」においては、自らが専門とする学修分野として「専門性ユニット」から1分野を必須選択とし、自らの将来就く職種に沿った「志向性ユニット」を選択することで、個々の個性に応じたオーダーメイドカリキュラムを提供する。 一方で、1年生から5年生までの混合型の地域連携 PBL を配置し、それぞれの立場において到達すべき技量、立ち振る舞いについて体験を重ね、成長を促すこととした。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) <ul style="list-style-type: none"> ・他人を思いやる心を持ち、自主的に行動できる人 ・基礎学力を有し、ものづくりに興味がある人 ・コミュニケーション能力を有し、国際社会で活躍したい人

学部等名 電子機械工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/ ） （概要） 機械技術と電子技術および情報技術を融合した電子機械（メカトロニクス）に関する専門知識と技術を身に付けた実践的技術者を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/ ） （概要） 機械技術と電子技術および情報技術を融合した電子機械（メカトロニクス）に関する専門知識と技術を身に付けた実践的技術者を育成する。 【ディプロマポリシー大項目】 (A) 人間性豊かな教養人となること (B) 創造性豊かな技術者となること (C) 国際性豊かな社会人となること
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/ ） （概要） 5年間の学修フェーズを「スタートアップ」「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の3つに大別し、学生は応用フェーズの履修登録時に、これまで学習した領域について、電気電子・情報系分野か機械系分野かを絞りながら深めていく。または幅広い領域を学修することにより対応の幅を広げ、自らの適性等を鑑みながら段階的に学修を進めてゆく。さらに、学内での知識や技術の修得だけでなく、学外での実践による知識・技術の定着にも重きを置いている。ロボットコンテスト等へ積極的な参加、インターンシップや地域自治体の主催するセミナーへの参加、企業との連携による活動にも重点を置いている。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/ ） （概要） 1. 他人を思いやる心を持ち、自主的に行動できる人 2. 基礎学力を有し、ものづくりに興味がある人 3. コミュニケーション能力を有し、国際社会で活躍したい人

学部等名 制御情報工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 制御情報技術 (情報応用システム・組み込みシステムに関する工学) における実践的技術者としての専門知識と技術を身に付ける。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 制御情報工学 (情報応用システム・組み込みシステムに関する工学) における実践的技術者としての専門知識と技術を身に付ける。 【ディプロマポリシー大項目】 (A) 人間性豊かな教養人となること (B) 創造性豊かな技術者となること (C) 国際性豊かな社会人となること
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 5年間の学修フェーズを「スタートアップ」「基礎フェーズ」「応用フェーズ」の3つに大別し、「スタートアップ」では制御情報工学科で学修する概要を理解し、「基礎フェーズ」において、自らが軸とする学習分野を決定する。「応用フェーズ」において、自らが専門とする学修分野について、さらに高度な内容に挑戦していくのか、もしくは幅広い領域を学修し対応できる幅を広げてゆくのか、自らの適性等を鑑みながら段階的に学修を進めてゆく。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/) (概要) 1. 他人を思いやる心を持ち、自主的に行動できる人 2. 基礎学力を有し、ものづくりに興味がある人 3. コミュニケーション能力を有し、国際社会で活躍したい人

学部等名 専攻科 (海事システム学専攻)
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/gakka/gaiyo/)
(概要) 高等専門学校における教育の基礎の上に高度の専門的学術を教授し、専門領域の幅を拡大すると共に、国際的感覚と広い視野を持って研究・技術開発能力、創造能力を発揮できる実践的専門技術者を育成する。
修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/)
(概要) (A) 専門分野におけるより高度な開発・創造能力を持った技術者となること <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野に関連する分野に関しての基礎知識と応用技術 2. 専門分野に関しての基礎知識と応用技術 3. 専門分野における創造的製作能力 (B) 複合的視点から物事を考え解決する能力を持った技術者となること <ol style="list-style-type: none"> 1. 複合視点のもとで、現実生活している地域社会の諸問題を明確化する能力 2. 技術者としての社会貢献と責任について考える能力 3. 課題解決のための計画を設定し、計画を遂行する能力 (C) 国際的な感覚と技術者としての自律した技術者となること <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語など外国語の読解能力、およびコミュニケーション能力 2. 論理的な記述、口頭発表、討議を行う能力 3. 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/)
(概要) (A) 商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門分野における、より高度な開発・創造能力の修得のための科目 <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野を高度化するために必要な基礎を数学などの自然科学科目や専門科目により養う。 2. 商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の分野の専門科目により高度な開発・創造が可能となるよう応用技術を養う。 3. 特別研究、特別演習を通じ、商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門とする分野における高度な創造的製作能力を養う。 (B) 複合的視点から物事を考え解決する能力を持つための科目 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文・社会科学科目や専門関連科目により、複合的視点から課題発見と解決方法を提案できる能力を養う。 2. 特別実習や環境・倫理に関する科目により、技術者としての社会貢献と責任を考える能力を養う。 3. 実験科目、特別研究により商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門分野および複合分野における課題解決のための計画を設定し遂行する能力を養う。 (C) 国際的な感覚を持ち自律した技術者となるための科目 <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語に関する科目により国際的感覚と技術者間で十分な意思疎通ができる英語によ

るコミュニケーション能力を養う。

2. 実験科目、特別研究、特別演習により、学会発表で通用する論理的な記述、口頭発表、討議を行う能力を養う。
3. 全科目を通じて、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える能力を養う。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法:<https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/>)

(概要)

1. 専門分野に関する開発能力の向上を目指す人
2. 複合的視点で社会的問題を捉えることのできる人
3. 国際的な感覚を持ち自律した技術者を目指す人

学部等名 専攻科 (生産システム工学専攻)
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/gakka/gaiyo/)
(概要) <p>高等専門学校における教育の基礎の上に高度の専門的学術を教授し、専門領域の幅を拡大すると共に、国際的感覚と広い視野を持って研究・技術開発能力、創造能力を発揮できる実践的専門技術者を育成する。</p>
修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/)
(概要) <p>(A) 専門分野におけるより高度な開発・創造能力を持った技術者となること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野に関連する分野についての基礎知識と応用技術 2. 専門分野についての基礎知識と応用技術 3. 専門分野における創造的製作能力 <p>(B) 複合的視点から物事を考え解決する能力を持った技術者となること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複合視点のもとで、現実に生活している地域社会の諸問題を明確化する能力 2. 技術者としての社会貢献と責任について考える能力 3. 課題解決のための計画を設定し、計画を遂行する能力 <p>(C) 国際的な感覚と技術者としての自律した技術者となること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語など外国語の読解能力、およびコミュニケーション能力 2. 論理的な記述、口頭発表、討議を行う能力 3. 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/)
(概要) <p>(A) 商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門分野における、より高度な開発・創造能力の修得のための科目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野を高度化するために必要な基礎を数学などの自然科学科目や専門科目により養う。 2. 商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の分野の専門科目により高度な開発・創造が可能となるよう応用技術を養う。 3. 特別研究、特別演習を通じ、商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門とする分野における高度な創造的製作能力を養う。 <p>(B) 複合的視点から物事を考え解決する能力を持つための科目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文・社会科学科目や専門関連科目により、複合的視点から課題発見と解決方法を提案できる能力を養う。 2. 特別実習や環境・倫理に関する科目により、技術者としての社会貢献と責任を考える能力を養う。 3. 実験科目、特別研究により商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の専門分野および複合分野における課題解決のための計画を設定し遂行する能力を養う。 <p>(C) 国際的な感覚を持ち自律した技術者となるための科目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語に関する科目により国際的感覚と技術者間で十分な意思疎通ができる英語によるコミュニケーション能力を養う。 2. 実験科目、特別研究、特別演習により、学会発表で通用する論理的な記述、口頭発

表、討議を行う能力を養う。

3. 全科目を通じて、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える能力を養う。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:<https://www.toba-cmt.ac.jp/about/kyouiku/>)

(概要)

1. 専門分野に関する開発能力の向上を目指す人
2. 複合的視点で社会的問題を捉えることのできる人
3. 国際的な感覚を持ち自律した技術者を目指す人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.toba-cmt.ac.jp/about/soshiki/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2人	－					2人
商船学科	－	6人	9人	人	3人	人	18人
情報機械システム工学 科	－	11人	8人	人	2人	1人	22人
一般教育科	－	7人	4人	1人	2人	2人	16人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			13人				13人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：Web ページ https://www.toba-cmt.ac.jp/sangaku/seeds/ 国立高専研究ポータルページ https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=04&affiliationId=6612000000					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
【実施内容】 ・教員 FD 研修（年 2 回） 等 【実施方法】 講演会 等 【開催状況】 ・教員 FD 「遠隔授業の問題点の抽出と解決」（R2/9/2） ・教職員 FD 「LGBT 研修」（R3/2/24～R3/3/3）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
商船学科	40人	43人	108%	240人	229人	95%	0人	0人
情報機械システム工学科	80人	85人	106%	240人	255人	106%	若干名	2人
電子機械工学科	人	人	%	80人	85人	106%	若干名	1人
制御情報工学科	人	人	%	80人	90人	113%	若干名	0人
合計	120人	128人	107%	640人	659人	103%	若干名	3人
海事システム学専攻	4人	1人	25%	8人	4人	50%	人	人
生産システム工学専攻	8人	8人	100%	16人	18人	113%	人	人
合計	12人	9人	75%	24人	22人	92%	人	人
(備考) 電子機械工学科・制御情報工学科は平成30年度をもって学生募集を停止 情報機械システム工学科は平成31年度に設置								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
商船学科	34人 (100.0%)	3人 (8.8%)	29人 (85.3%)	2人 (5.9%)
電子機械工学科	28人 (100.0%)	7人 (25.0%)	20人 (71.4%)	1人 (3.6%)
制御情報工学科	44人 (100.0%)	7人 (15.9%)	36人 (81.8%)	1人 (2.3%)
合計	106人 (100.0%)	17人 (16.0%)	85人 (80.2%)	4人 (3.8%)
海事システム学専攻	1人 (100.0%)	0人 (0.0%)	1人 (100.0%)	0人 (0.0%)
生産システム工学専攻	12人 (100.0%)	1人 (8.3%)	11人 (91.7%)	0人 (0.0%)
合計	13人 (100.0%)	1人 (7.7%)	12人 (92.3%)	0人 (0.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 本校専攻科, 豊橋技術科学大学, 長岡技術科学大学, 東京海洋大学, 神戸大学 等 参考ページ: https://www.toba-cmt.ac.jp/shingakushushoku/shinro/				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本校において、授業計画（シラバス）は次年度の作成を12月頃から始め、4月1日から本校HPを利用し公開（Webシラバス）している。</p> <p>なお、シラバスには以下の事項の記載を必須としている。</p> <p>【シラバスへの記載事項】 到達目標，ルーブリック，教育方法，評価割合， 授業計画（週（回数）ごとの授業内容・方法および到達目標）</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
規則（学則，学業成績の評定並びに修了及び卒業に関する内規，教務に関する内規 等）により卒業認定条件等を定め，学内会議において認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
—	商船学科	147 単位	無	単位
	電子機械工学科	167 単位	無	単位
	制御情報工学科	167 単位	無	単位
—	海事システム学専攻	62 単位	無	単位
	生産システム工学専攻	62 単位	無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.toba-cmt.ac.jp/about/shisetsu/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)	
—	商船学科	234,600 円	84,600 円	88,650 円	【その他の内訳】 ①スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円 ②教科書代金：30,000 円～40,000 円 ③学生会費：8,400 円 ④後援会費：28,800 円 ⑤寄宿料：8,400 円 ⑥寮生会費：1,500 円	
	情報機械システム工学科			78,650 円		
—	海事システム学専攻	234,600 円	84,600 円	28,950 円		【その他の内訳】 ①スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円 ②教科書代金：7,000 円 ③学生会費：8,400 円 ④後援会費：28,800 円
	生産システム工学専攻			28,950 円		

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 保健室・学生相談室・学修推進支援室の設置 等。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) インターンシップの実施, キャリア教育に関する科目 (キャリアデザイン1・2・3) の開講, 就職支援セミナーの実施, キャリア教育推進室の設置 等。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 保健室・学生相談室・カウンセラー室の設置 等。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.toba-cmt.ac.jp/jkoukai/kyoikujocho/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	G124110107265
学校名	鳥羽商船高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		42人	41人	46人
内 訳	第Ⅰ区分	25人	21人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				46人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		—	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		—	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		0人	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。